

(4) 公開意見交換会 ～「真駒内公園」における新球場建設構想～

◎公開意見交換会～「真駒内公園」における新球場建設構想～

○島口義弘（司会） それでは、大変お待たせいたしました。

これから、公開意見交換会を始めさせていただきます。

それでは、「真駒内公園」における新球場建設構想というテーマで今日はフォーラムを行っておりますが、これから登壇者の皆様と意見交換をさせていただきたいというふうに思っております。

それでは、ここで登壇者の皆様を改めてご紹介させていただきます。

時間の関係上、略歴などは割愛させていただきますので、ご了解くださいませ。

それでは、ステージに向かって左からでございます。札幌市まちづくり政策局プロジェクト担当部長の村瀬様でいらっしゃいます。

同じく、札幌市まちづくり政策局長の浦田洋様でいらっしゃいます。

この紹介は逆さまではありませんか。これは、上司から紹介しなくていいのですか。大丈夫ですか。

そして、そのお隣は、先ほど1番目に基調講演をいただきました株式会社スポーツファシリティ研究所代表の上林功様でいらっしゃいます。

続きまして、2番目の基調講演をいただきました北星学園大学経済学部教授の鈴木様でいらっしゃいます。

そして、そのお隣は、北海道日本ハムファイターズ事業統括本部長の前沢様でいらっしゃいます。

お隣は、副本部長の三谷様でいらっしゃいます。

以上の皆様と意見交換をさせていただきます。

なお、意見交換につきましては、参加申し込み時、さらには、今、集計が間に合っておりませんが、順次、私のところに届きますので、その質問を踏まえて私のほうから登壇者の皆様に話題を振っていくというふうに思っておりますので、限られた時間で、短い時間ですが、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、早速でございますが、皆様にお聞きをしていきたいと思っております。

まず、先ほど、先生方の講演ということでは、新しい考え方ということをお2人の先生からいただきました。本当に海外や国内の成功事例をご紹介いただいたということでは、なかなか拝見できないものを見られたのではないかというふうに思ひまして、すみません、20分ではとても終わらない授業でございます、先生には個人的に1時間ほどお話を聞きたいなというふうに思っておりますけれども、ただ、そんな中でも、札幌市さん、球団さんのほうからお話がございました。球団さんは、実際にパースをお描きいただいて、皆様が実際に暮らしておられる区域にどういうふうなものをという形でございます。もちろん、決定したことではなく、こんな夢を語っていただいたということと、これからの取り組み姿勢などのお話をいただいたわけでございますけれども、さあ、その二つを聞いて、

今日、実際に講師として来ていただいているお二人に率直な意見を聞きたいなというふう
に思っております。

まず、長々話すと時間ももったいないので、1分程度で感想程度にお伺いしたいと思
いますが、まず、上林先生からお伺いしたいと思います。今日のご意見はいかがでございま
しょうか。

○上林功（有識者） 率直な意見というところで、私は建築、設計する立場でもしお話を
させていただくならば、今日のファイターズさんの新球場を見たときに、まだまだ周りにも
展開していく余地がある。しかも、そこに実際に、夏場でしょうか、人が走っている姿
だとか、そこで憩う姿というのが何となく思いついたという点においては、まだまだこれ
からの計画だなというふうなところを思うと同時に、恐らく、皆さんはいろんなことを気
にされている交通の話だとか騒音の話、あれだけ具体的に見えてくると、ここにこういう
遮音板を置けばいいなとか、いわゆる設計者の立場としては、逆にこれではっきり課題が
見えてくるものになるのではないかと思います。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

それでは、同じく、鈴木先生、いかがでございましょうか。

○鈴木克典（有識者） 先ほど、札幌市さんとファイターズさんのお話を伺って、これま
で、やはり情報が少ない中で、誤解まではいかないのですが、さまざまわからない
点がございましたので、本日お話を伺って、少し安心しているところでもございます。

安心と申しますのは、これからという部分もあるのですが、やはり、私も思い浮
かべていた絵がありまして、その中で、やっぱり札幌市さんもしっかりと押さえていかな
ければいけない自然とか交通とかというものもしっかり押さえていただいていたし、
ファイターズさんにもその辺を踏まえて示していただいたのかなと思います。

最後に、ゴールを設けないというお話がございましたけれども、やはり、可能性の余白
ということで、今後、地域の方と一緒につくっていければいいのかなというふうに思いま
した。

どうもありがとうございました。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

それでは、上林先生にちょっとお聞きしたいのですが、実際に球場とまちづくり
という中で、直近で関わられたのは広島なのかなというふうに思います。その中では、実
際にどういうふうに地域住民の方々を含めて地域とマッチングしてきたのか、決めていく
経緯というものが私どもとしてはなかなか難しいなと思っているところがあります。また、
広島だけではなくて、ご紹介いただいた横浜の例もありますけれども、具体的に地域住民
の意見を吸い上げる方法の中で、どのようにやられてうまくいった地域があるか、ちょっ
とご紹介をいただけたらうれしいなと思います。

○上林功（有識者） ありがとうございます。

私は、どうしても設計者という立場から、いわゆるまちづくりに皆さんが参加するため

にはということを考えてときに、いかにまちとスタジアムをつなぐのかということにどうしても興味があります。

例えば、広島のマツダスタジアムは、行っていただいた方はわかると思いますが、幅12メートルのコンコースがぐるっと600メートル回っているのですね。実は、あれって、当時、道路特定財源と呼ばれるまちづくり交付金というものがかつてあったのです。要は、道路をつくる時に交付金が国から出るのですね。それが欲しかったというところもあるのですけれども、実は、申請上、マツダスタジアムのコンコースは扱いが道路だったのです。あれは道路なのです。それを証拠に、あそこは軽トラに乗って走れるのです。

というような形で、実は、まちの機能の一つである道路というものがスタジアムにもはや組み込まれているということで、いわば、まち中の道路上で市場を開かれたりみたいな、そんな話の延長上で、まちの機能とスタジアムを組み合わせたとというのがマツダスタジアムの一つのおもしろいところでもあります。

実は、この発想は、ボストンレッドソックスの非常に古いフェンウェイ・パークというものがあります。アメリカのボールパークの中でもかなり古い部類です。まち中の本当に限られた敷地の中にぎゅっと押し込んだせいで、左右非対称だったり、レフト側がぎゅっと削られてグリーンモンスターという壁があるちょっと特徴的なスタジアムなのです。

今、非常におもしろいのは、フェンウェイ・パークは、狭過ぎて周りの土地がとれないのです。でも、ファンの方がいっぱい来るので、どうなっているのか、周りの道を歩行者天国にしてしまうのですね。フェンウェイ・パークを囲んでいる道路がぐるっとあるので、そこを、試合がある日は、ボストン市の協力のもと、歩行者天国にして、そこに屋台が出て、ファンの人たちはそこで飲食をしたりするわけです。

いわば、試合のある日だけは、ボストンのまちそのものがスタジアムになっていくという話があったりします。これは、スタジアムがまち化したみたいな感じですね。まちの一部がスタジアム化したのが道路を組み込んだマツダスタジアムならば、ボストンレッドソックスにおいては、スタジアムがまちに拡張した、いかにしてまちとスタジアムを融合させていくか、もちろんそれをするには共創的な仕組みが必要なのではないかというところがあると思います。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

今回、先ほど、実際の球場のパースが出てきましたけれども、私どもに寄せられている意見もそうですし、本日いただいているご意見の中にも、自然が壊されるのではないかとのご意見をいただいております。

そのほかに、逆にこんなご意見もいただきました。真駒内公園は、週末のジョギングによく利用しておりますが、施設の老朽化や陳腐化が目立ち、時代に合わなくなっていると感じました。樹木は本当にきれいでいつまでも残してほしいと思いますが、球団ファンとともによりよい公園になるなら、子どもたちにとってもよい遺産になるのではないのでしょうかということでございます。もちろん、今の自然も大事にしたいですけれども、将来も

大事にしたいというご意見でございました。

先ほど拝見したパースですと、後ろ側にある古い原生林などは全く手をつけていないように見えたのですけれども、球団さんは、この辺のこれからの展開をどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

○前沢賢（ファイターズ） 今のご質問には二つあると思います。

一つは、先ほどパース案でも出ささせていただきましたけれども、築約50年経過している施設が二つあることによって、本来必要である機能というのが今のニーズに合っていない部分ももしかしたらあるのかなというふうに思います。そういった意味も込めまして、シャワールームとか着がえスペースというものをご提案させていただきました。

また、そういったものを税金だけで賄うのではなくて、民間資金を有効活用するという考え方は、先ほどの上林先生のお話にもあったように、ソサエティー5.0も含めて合致するのかなというふうに思います。

また、自然については、ご覧いただきましたように、南側はほとんどさわっていないというのが一つと、全体で約85ヘクタールの敷地がありますけれども、その中でも全体の約30%弱ぐらいしか今の絵には入れておりませんので、球場ができるイコール自然破壊というふうな直結的な考え方にはならないのではないかとこのように思っています。ただ、これについても、ぜひ今後議論させていただきながら進めていくべき事案だというふうに認識しております。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

今日の意見の中でも、皆さんもそうですね。交通アクセスということでは、先ほど見たあの距離の中で不安に思っているということが非常に多うございますね。

そんな中ですが、もちろんご検討はされていると思いますけれども、何度も申し上げているのですが、実際にはまだ正式に表明されていない状態でございますので、きつともって、そちらのほうも必死に考えているのではないかなということで、正式なご発言という段階ではないと思うのですが、これは札幌市さんに聞いてみたいのですが、どうでしょうか。何とかかなりそうですね。

○浦田洋（札幌市） 事前に今回の参加の申し込みをしていただいたときに、ご質問やご意見等を書いていただいた中にも、やはり交通渋滞が今でもひどいのにもっとひどくなるのではないかとこの懸念が数多くございました。今、アイスアリーナで何もイベントがなくても時間帯によっては結構混んでいる。さらには、アイスアリーナで多くて9,000人規模のイベントがあるときには、国道453号と五輪通の交差点が非常に混雑して動かない、特に五輪通の東行きの車線はかなり渋滞長があるという声があり、私どももその現状を認識しております。

ここに球場ができたらどうなるかということでございますが、当然、球場に向かう方々の足をどう確保するかということはこれから協議をすることになりますので、これが決め手になりますというようなことを現段階で申し上げるのはなかなか難しいところではござ

いますが、一つには、五輪通が既に混んでいるということに関しては、今年度も実態調査を既にやっけていまして、来年度からその実態調査の結果に基づいて対策に着手をしたいと考えております。

それから、やはり、駐車場がどの程度の規模になるかということも非常に大きな要素だと思いますが、これはまだはっきりとどういう状況になるかはわかっていません。ただ、先ほどの説明の中でもありましたが、今回、真駒内というのは、地下鉄南北線が使えます。真駒内は始発駅でもありますし、時間当たりの輸送量も非常に大きいということで、できるだけ地下鉄を使っていただいて、真駒内駅と新球場の間のアクセスを何とかすると。

これも、先ほど鈴木先生の話の中にございましたが、我々は、現段階では、もし球場ができたとすれば、できるだけバスアクセスを中心に考えていきたいと。分担率3万人のうち、どれぐらいの方々が地下鉄、バスを使うのかということもまだはっきりとわかっておりませんが、一応、想定でどれぐらいの人が来て、そうなるどれぐらいのバスが必要になるのではないかとといったシミュレーションももう既に始めておりまして、今後、関係機関とも協議をして、極力、地域の皆様方にご迷惑をかけないようにしたい、なおかつ、球場にいらっしゃるファンの方々が行きやすい手段の確保に努めてまいりたいと考えております。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

先ほどの説明の中で、今日のご意見にもあるのですけれども、真駒内駅前の再開発も視野に入れるというお話がありました。もちろん細かい話等はないのですけれども、今のお話ですと、玄関口となる真駒内駅ということで、その地域と一緒にまちづくりをすることもありますが、札幌市さんで、ぜひこの地域でこんなことをやってみたいと考えているようなことは何かありますか。

○村瀬利英（札幌市） 具体的には、先ほど説明しましたように、平成31年度に駅前のまちづくり計画を策定する予定でありまして、それは地域の方々との意見交換を踏まえて策定したいということなので、具体的にはそこでだんだんと明らかになっていくのですけれども、基本的な方向性、考え方としましては、広場的な空間、今はどうしても通過型の空間になっておりますので、皆さんが集えるような駅前広場的な空間と、その周りには公共施設も含めて民間施設があり、キーワード的には多機能複合型の空間、広場空間ということがキーワードになるのではないかと考えております。

特に、広場的空間に関しては、札幌市でも都心部で北3条広場や大通の地下鉄コンコースを利用した広場、あるいは、苗穂でも再開発を通じた広場の整備も実践としてありますので、それをまねするわけではないのですけれども、そういうものを参考にしていければいいというふうに思っています。

もちろん、広場というのは、つくって終わりではなくて、いかにそれを皆さんで使っていくのかという観点も含めながら検討していければいいかなと思っています。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

今、広場という話が出ました。広場というと、皆さんが普通に想像するのは空間を意味するかもしれませんが、実は、広場条例を札幌市で決めて、空間の上を自由に開放しようという考え方です。ですから、決して行政さんがという世界ではなくて、地域の皆さんもお使いいただける赤れんがテラスのような空間を真駒内駅前という話でございます。そういう意味では、皆さんと集える場所が増えるとか、いろいろなことができる空間ができるというのはおもしろいかもしれませんね。

さあ、今度は球団さんに聞いてみたいのですが、一番最初に出たボールパークのパー스에みんなが驚きまして、ものすごいなと思っていたところ、先週、北広島案が出てきて、今日は真駒内案が実際に出てまいりました。区別がよくわからないのですが、真駒内案を我々が見たときに、何が目玉なのでしょう。

○前沢賢（ファイターズ） まだ真駒内エリアが正式な候補地ではないという段階ですので、検討が進んでいるところと進んでいないところがあります。とはいえ、違いは何かと言われれば、施設、空間以外になりますけれども、真駒内エリアにある自然豊かなものというのが一つの特徴になるだろうと。

象徴的なものとしては、藻岩山の借景などは本当に素晴らしいと思いますけれども、真駒内川、こういうものがあるというのは大きな特徴ではないかというふうに考えております。

○島口義弘（司会） 確かに、真駒内というのは、四季があるまち、要は、春、夏、秋、冬ははっきりわかるまちとして、他地域よりもすごく、住んでいたらわかるのですけれども、そういうところがあるなということでは、そういう自然をとということの調和を考えていらっしゃるということでございます。

すみません。余りかたい意見交換会にいたくなくて、みんな笑顔でお願いしますと言ったのですけれども、みんなかたい顔をしているのですが、決してそんな人たちではなくて、本当は、前沢部長さんは、もともと高校球児でいらっしゃいまして、大学でも野球をやっていた方なものです。怖い顔をしていそうでしょう。笑ったらすごくすてきで、ふだんこんな笑顔が出せるのですから、いつもやってくださいといつもお願いしているのです。また、隣の三谷さんは、北海道マラソンにお出になられて、完走もされるぐらい、そのぐらいアクティブに結構動いていらっしゃいます。そのほか、こちらに札幌市さんもいますけれども、がっちり座っている局長さんは偉いのですが、サッカーの観戦とかも一生懸命行かれておりまして、よく私もまち中でお会いするのですけれども、どこかへ行ってきた帰りですとあって、本当にアクティブな方です。村瀬部長も、実際に札幌マラソンにせんだっても出られて、50歳超の部ということで、10キロメートルを完走されています。ということで、スポーツになじんでいらっしゃる方々でございます、真ん中のお2人はデータがありませんので、よくわかりません。

そういう世界でございます、実は、皆さん難しく考えているかもしれないのですが、人となりとしては、本当に真面目で、よくお話を聞いてくれる方でございますので、その

辺はちょっと、皆さんもこれから、なんかかたぶつがやっているのだよねなんてことは思わないように、そういう意味では、ちょっと近い人になってほしいなという願いもありますので、よろしくお願ひしたいなというふうに思います。

さあ、それでは、続いてでございますけれども、これは上林先生にちょっと聞いてみたいなと思うのですが、今日、本州からお越しをいただきました。ここの真駒内、本当に冬の真っ最中、雪で埋もれているところもございまして、公園ももう雪だらけということなのですが、大抵のパスとか、先生がご紹介したものは夏の絵ばかりなのです。ほかの札幌市の事業もそうなのですけれども、夏の絵ばかり描いてくれるのですが、冬のイメージってなかなかないのですね。そういう中では、私どもからすれば、冬も財産の一つということなのですけれども、まず、そういう意味では、冬の景色をもってして、スタジアムというのはどういうふうに一緒に融合できると考えられますか。

○上林功（有識者） むちゃくちゃ難しいですね。

○島口義弘（司会） ですから、逆に言うと、本州の人から見て、こういう雪の中でしたらこんなことができるのかなと何か思ったことがありますか。

○上林功（有識者） 実は、今日も午前中に真駒内公園をうろうろと巡っていたのですけれども、本州の人間からしたら、えっというような光景として、雪の中をスキーで実際に行かれている方がいるのは、さすが北海道と思ったのですけれども、中にはランニングをしている人がいるのです。東京なんて、3センチ積もっただけで滑るだの転ぶだの言っているのに、北海道の人たちは、この雪の中をランニングするのかと。

逆に言うと、こんな雪の環境であっても運動の機会を逃さないというところもありますし、それぐらい魅力的な公園なのだろうと思うのですが、例えば、せっかく、いわゆるスタジアムをもし実際に誘致して、周りをもっとよりよくスポーツに使える場所にするのであれば、例えば、本当に雪の中でも走れるようなトレイルランニング、それこそロードヒーティングを突っ込んだような、雪の中でもランニングロードだけは雪が解けている。もしくは、先ほどの完成予想図といいますかパスは、いわゆるスタジアムだけを描いたのですけれども、実は、周りの施設とのネットワークというところで、例えば、屋根つきの歩廊であったり、そういうのは幾らでも考えると思うのですが、雪の中でもスポーツができますよみたいところを一つ売りにできるような、そんな提案があってもおもしろいのではないかなと思います。

○島口義弘（司会） それを受けまして、球団さん、実際は野球も夏のスポーツですので、シーズンオフとか冬場の間という活用もありますけれども、そういうのは実際にどのように考えているのかなということも聞いてみたいので、ぜひ言っていただけますか。

○三谷仁志（ファイターズ） 夏のイメージ図が多いというご指摘がございましたけれども、確かに、先ほどご覧いただいたのも夏のイメージに限りなく近いかなというふうに思っております。右側のところに、水辺空間で親和性のあるカフェ、レストランというような記載がございますけれども、一つ、夏のイメージだとこんなものということでご紹介し

たいのがこちらのイメージ図でございます。

先ほど、前沢のほうから、真駒内川、そこから見える借景、藻岩山がきれいだというような話をさせていただきました。本当に駅のほうから歩いてきますと、真駒内川、実際には、そんなに水辺とは近くないのですけれども、新しい球場をもし真駒内につくれるのでしたら、こういったところもうまく利用して、皆さんに水を楽しんでいただいたり、近くのカフェなどでくつろいでいただいたりということを考えたいというふうに思っております。

確かに、このように、どうしても夏の絵が多いのですが、冬の使い方ということで幾つかご紹介させていただければと思います。

我々も、球場をつくったときには、当然、3月から10月は野球をやっておりますので、野球をメインでフィールドは使っていくのですけれども、11月から2月のオフシーズンについては、ほかのスポーツ並びにイベントなどの利用も考えていきたいと思っております。先ほどイメージ図をご覧いただきましたけれども、球場の中にも、各種、VIPルームだとかラウンジなどがありますので、毎月とまでは言わないですが、一部のそういった会議やイベントなどができると思っておりますので、そういった利用方法もあわせて検討しながら、フィールド上ではオフシーズンの利用方法として、海外の事例を今日はご紹介させていただければと思います。

これは、アメリカのインディアナ州というところにある球場ですけれども、球場の中のスペースをうまく使ってアイススケートを楽しんでもらったり、チューブ滑り、もしくはアイスホッケーのミニスケート場などをつくったりして、みんなで楽しんでいるというような図でございます。

これは屋外の球場ですが、こういった使い方、遊び方が世界的に見ると一般化しております、市民に開放して、こういった球場にあるアイススケートを楽しんでいただくというような取り組みもしております。当然、ここでNHLのホッケーの公式戦が行われたりもしております。

違う球場でも、こういったものが多々行われているような状況でございます。

それ以外にも、バスケットボールを球場でやっとうと考えるところもあります。我々の場合は、球場が開閉式なのか、密閉型の屋根なのか、まだ検討中ではございますが、そういうものがつくればいろいろな楽しみ方ができるかなというふうに思っております。

仮に、真駒内でこのような施設を展開したときには、隣のホテルもありますので、そのホテルで食事をして、遊んで、最後は温浴施設で温まって帰っていただく、こんな楽しみ方もできるのではないかなと思っております。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

温浴施設ということですから、スポーツにかかわらず、温泉も一応想定されているということですね。ということで、大江戸温泉物語ではないのですけれども、そういう意味で

は、真駒内で憩いの場所を考えたいということでございました。

さて、お時間もそろそろ佳境に入ってきましたので、ざっとご紹介をさせていただきますが、ご意見の中からでございます。

球場に売店をつくってしまったら、近隣商店街はおろか、南区で商業を営むお店、特に飲食店などは大打撃を受けると思います。どう思われますかなどと聞いてくれまして、我々商業界のために考えていただきまして、ありがとうございます。

この辺については、きちんと球団に申し入れまして、きっと共存を願っていただけるといふふうに思っておりますので、そういう意味では、引き続き、商業者と地域の住民との融和はきちんと図っていただけるのではないかなというふうに思っております。

また、場所はどうか、ファンがまた来たいボールパークをつくってもらいたいです。そして、12球団でナンバー1の観客動員数となってもらい、それが選手、監督の力になると思いますということでございまして、その辺は、逆にもう自信があると思っておりますか。

○前沢賢（ファイターズ） はい。

○島口義弘（司会） 頑張るといふことですね。わかりました。

本当に多くの意見をいただいた中で、私どもにも一番大きく言われていますし、今日のご意見にもございましたが、要は、今回進める中でいろいろな報道が先行し、二転三転したような雰囲気がありました。そんな中、札幌市と球団が何か密室で決めていて、我々市民や地域住民がかやの外に感じるのだというご指摘の意見がやはり多かったですね。そういう意味では、もちろん球団さんとして最終の意思を示していない状況では、軽はずみなご意見というか説明は逆に混乱を招くといふことは十分理解しておりますけれども、やっぱり、市民や地域感情を考えますと、この発言といふのは我々市民からすれば納得ができませんことだなというふうに思いました。

もちろん、今までは今まででございます。私どもはこれからなのかなと思っておりますので、今後、もし札幌市内に球場を建設しようと正式に表明をされたときには、どのような形で地域と関わっていこうと思っているかといふことでもございまして、核心の方は後にしまして、まず、鈴木先生から、コミュニティーを含めてなのですが、そういう中ではどのように進めていったらよろしいでしょうか。

○鈴木克典（有識者） これは、地域性もありますので、そのまま当てはまるというわけではないですけれども、最近、まちづくりも、いろいろなところで、住民と行政と企業とかNPO、または大学と一緒にというところも結構あります。試行的に、いろいろな協議会とか、ソフト的なものもありますし、マンションの協同組合みたいな感じで、一緒になっているいろいろと考えて、前向きにつくっていくというところが全国的にも結構出ていますので、その辺で一步踏み出していきたいと思っております。

○島口義弘（司会） それでは、先ほどと重複してしまうかもしれませんが、上林先生はどうですか。この地域等を含めて、今後のエールを送っていただきたいと思っております。

○上林功（有識者） 最近ですと、メジャーリーグベースボールなんかを中心に、いわゆる地域を巻き込む仕組みをチームが積極的に牽引している事例があります。有名なのは、ドジャースのアクセラレータープログラムや、先ほど横浜DeNAベイスターズの際にも紹介したのですけれども、地域とチームが密接にかかわれる場所というものを具体的にどこかにつくって、そこで一緒に協業できるというようなところを形として見せるということが僕はすごく重要な気がしています。もしかしたら駅前再開発がそこと関係してくるみたいな、そんな話もあるかもしれないなという気はしています。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

それでは、浦田局長、みんなも、市民の意見を含め、いろいろな形で地域の意見を聞いてほしいというふうなことでございます。もちろん、市役所本庁もそうでしょうし、出先の南区役所もそうだと思いますが、そういう中では、そういう意見を吸い上げる、そして、よく聞くような形で進めていくということについては、どうですか、やっていただけますでしょうか。

○浦田洋（札幌市） 先ほど村瀬の説明の中でもお話をしましたが、今回の新球場建設構想をめぐる一連の動きの中で、どうしてもマスコミ報道のほうが先行してしまって、市民の皆様方への情報提供が遅れてしまったということは否めない事実で、そのことによって不安を与えてしまったことについては大変申しわけなく思っております。

一昨年の12月以降、タスクフォースというチームが立ち上がって、本格的に新球場建設に向けてファイターズさんが動き出したと。ただ、それに対して我々も協力依頼を受けて、市のほうも協力していきましょうというプロジェクト、実は、公共事業ではない民間の大規模なプロジェクトを、しかも、まだはっきりと計画のベースになる部分も定まらない中で、どういう形でどこまで情報提供すべきかということについて、我々も非常に難しさを感じてきたところでございます。結果的に、情報提供不足から皆様方に不安を与えてしまったということは本当に反省しております。

実は、昨年の12月に、ホームページで、これまでやってきました実務者協議の概要を公開させていただいております。そのホームページだけでいいのかという声も頂戴していた矢先に、今回、島口さんのほうから、やはり公開の場で市民の皆様方に情報提供すべきだというご提案を受けまして、今回、こういう形で参加させていただきました。

今のお話にもございましたが、やはり、直接お話をすることによって、考えていてくれるのだという言い方はおこがましいですが、私のところに来られた市民の方とお話した後で、市民の方が、一応検討してくれている、さらには、そこまで視野を広げているのだということを知って安心される方がいらっしゃることは確かです。

そういう意味で、今回の反省を生かして、今後、このプロジェクトがどういうふうに進んでいくかわかりませんが、可能な限り、皆様方に情報を提供し、なおかつ、そのことに対する皆様のご意見というのも真摯に受けとめて進めていきたいというふうに考えております。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

最後になります、球団さん、みんなでやるとしたらやりたいなと思うところもありますし、そういうところの姿勢をぜひご表明いただきたいと思います。

○前沢賢（ファイターズ） いろいろ至らない点があったのだというふうに、今さらながら認識しているところもあります。

そういった中で、幾つかフェーズに分けてきちんと対話していくべきだなと思っておりまして、ちなみに、現段階では、正式に候補地として認められていないというのがまず第1フェーズです。第2フェーズとしては、正式候補地としてご提案をいただいたということです。最終的には、北広島市か札幌市さんかわかりませんが、どちらか一方に決まったといったときに最後のフェーズだと思っております。当然、3番目の決まったときの情報公開及び対話というのは、ぜひ頻繁に設けさせていただきたいと思いますし、極力、我々は2人だけでやっているわけではありません、うちの職員も含めてぜひ地域にお邪魔していきたいというスタンスでございます。

また、これまでの第1・第2フェーズの中で、若干、情報が公開されていないように思われてしまったのは、片や北広島市さんは実務者協議の後に囲み会見があって、札幌市さんのほうにおいては、いろいろな諸事情もあってできなかったというのは大いに反省すべきところかなと私どもは思っております。

※下線部の発言については、フォーラム終了後のマスコミ取材対応で下記のとおり訂正。

パネルディスカッションのところで、情報公開についてのお話があったんですけれども、ちょっと一部誤解されていらっしゃる方がいらっしゃるので、もう少し細かくお話をさせていただきますと、実務者協議が終わった後に、囲み会見をしたか・してないかっていう話なんですけれども、それは北広島市さんがさしていただいたように、札幌市さんもさしていただいています。

なんですけれども、回数の違いがあって、足りないところがあったなという反省があったということです、どちらかが、簡単に言うと札幌市さんがやりたくないからやらなかったというわけではないので、ご了承いただければと思います。

とはいえ、ぜひ、なかなかお忙しいとは思いますが、当社は、メディア、マスコミの皆様から取材の申し込みをいただいたときには、多分、ほとんどお受けしているような状態でございます、そういった意味で言いますと、テレビ、新聞を通じて、できるだけ多くの方々に知っていただけるような情報公開も引き続き大事にしていきたいというふうに考えております。

○島口義弘（司会） ありがとうございます。

最後は笑顔で言っただけるとよかったな。

それでは、今までのご意向、いろいろと皆さんのご意見も募集させていただきましたが、そういう意味では、これから本当に透明化された意思決定システムの構築、実行を札幌市

と球団に求めたいと思いますし、球団の皆さんも、ぜひ今度は、せつかくこういうチャンスがあったのですから、南区の皆さんと一緒に、こういう話ではなくても、日ごろのまちづくりやにぎわいの中でご協力をいただければありがたいと思いますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

それでは、お時間が相当過ぎておりますが、以上をもちまして公開意見交換会を終わりたいというふうに思います。

それでは、登壇者の皆様に、いま一度、大きな拍手をお送りください。

ありがとうございました。（拍手）

